大正九年二月二十三日第三種郵便物認可
大正九年六月二十日印刷納本

婦人と新社會

山田わか主筆

七月號

每月一回一日發行　第五號　大正九年七月一日發行

東京　東洋出版社　發行

富貴竈

忽諸ニ付ス可カラザル

庖厨ノ經濟

本器ハ如何ナル家庭ニモ順應シ得ル構造ニシテ僅少ノ燃料ニテ完全ニ炊爨ヲ便ジ其ノ經濟的眞價ハ第一高等女學校ノ證明スル處ナリ

目錄進呈



東京市淺草橋際

阿部彦商店

電話下谷 三二四八 / 一九二三



婦人と新社會

女は夫に素顔を見せるものでないと祖母や母が云ふのを聞いて私は、夫婦の間がそんな窮屈なものであるならば結婚は實につまらないものだと思つたことがありますが、それから二十何年後の今日でも矢張り私は其の時と同じ考へを持つてゐます。

男女の愛は朝日に光る草の上の露よりも美しく春の朝高らかに歌ふ小鳥の聲よりも清らかである筈です。そして、夫婦は戀人のやうに愛し合い親子のやうに懐しみ合い、兄弟姉妹のやうに親しみ合い朋友のやうに信じ合ふものでなければならない、と私は思つてゐます。

草の上の露の色、春の朝の小鳥の聲に厭きることはなくても相手の男又は女に厭きが來ると云ふのは本當の愛の美しさ其の愛の使命を知らない男女が顔や心にお化粧をしすぎる。つまり醜い處をかくさうとして却つて眞純なものをも覆ふてしまつて生氣のないデックリボウになつてゐるからであろうと思ひます。

七月號



性的教育

戀愛が藝術品であると云ふ説に異議はない

新婦人協會が結婚法の改正を議會に請願致しました。そして、それは花柳病男子の結婚制限に關するものであることは世間周知のことですが、それに付いての反對の聲があちこちに起つたことも亦既に皆様が御承知です。そして、其の反對の聲の主なるものは與謝野晶子氏の御議論でありました。與謝野氏は云はれました。

『私は、結婚に就ては戀愛のみを主として考へたい。殺風景な花柳病などを問題とし

たく思ひません。………美しい藝術品などの前ではそれを考へたくないと思ふのです。かう云へば詩人の空想だと嗤ふ人達があるかも知れませんが、藝術氣質と共に科學氣質をも尊重する私は、花柳病の取締は取締で、別に出來るだけ嚴正であることを望みますが、それを結婚と結び附けることは、私の藝術氣質が反對します。』

又、

『私達が藝術思想に由つて香味づけられたなつかしい生活を、生活の各部に於て要求して居るのに對し、職業に就くには卒業證書、敎育者となるには檢定免狀、………汽車、電車、乘合自動車に乘るには乘車券、買物には廉賣券、さうして結婚には花柳病の診斷書、かう迄事毎にせちがらく物質化され形式化されねばならない生活を殺風景だと思ひます。』

實に其の通りです。私共の理想としては此のお說に對して一言云ふ處はありません。人生と云ふ大幻燈のうちには戰爭、學問、發見、商工業と云ふやうなものが活躍して居て、それ等が目まぐるしい渦をなしてゐますが、それ等の中にからまつて、或

ひは、それ等凡てを司つてゐるものは愛でありますから。實際、美しい戀愛、自然の傑作である藝術品を法律の手で左右されることは何としても我慢出來ないことであるに相違ありません。

戰爭、學問、發見、及び、商工業の方面に於て、人は、時には傷いたり、時には絕望したりします。そして、其の時に其の傷や絕望を癒したり、阻喪しきつた精神を鼓舞するものは愛の力であります。偉大な力、社會の原動力である戀愛は物質上の何物をも、ものゝ數には置かない筈です。兩性愛は肉體的であると同時に神秘な力を持つてゐます。それが超自然的な智識を人間に持たしめます。そして、それは死にも打ち勝ち得る力です。人生は單に感覺と智力上の經驗計りのものでないと云ふことを知る人は、皆、それを感じてゐる筈です。この至上至醇な戀愛は、實に、何處迄も與謝野氏の云はれる通り美しい藝術品として取り扱いたいものです。

藝術品が亂用されるので問題がある

處で、極く少數の最高にレフアインされた人を除く外は戀愛の其の意義を了解して居りません。稍もすれば戀愛は我慾の又は汚ない快樂の具に供されます。其の結果は婦人と子供の難義、種族の損失、社會の重荷と云ふことになります。

亞米利加は何もかもが日本よりも進んでゐると云ふわけではありませんが、それでも、救世軍の慈善鍋と云つたやうな種類のものは大都會の人の密集する四ッ角などに置きッぱなしになつてゐて、我が國のやうに其の傍に人がついてゐません。又、諸新聞をギッシリ積んだ古い店が錢箱と一所に夜も晝も矢張り道ばたに置きッぱなしになつてゐます。そして、新聞が減つた割りに錢箱に入れられた金が少なかつたことも、盜まれたことも、又、慈善箱がどうかされたと云ふやうなことも私の在米中には聞いたことがありません。こゝ迄公德心が高くなつてゐるのですから、もう一步進めば與謝野氏が嫌つて居られる凡ての乘物に乘車券はいらなくなりませう。亞米利加では電車切符はありませんが汽車には矢張りあります。

それから、紳士と云はれる人が一度花柳界に足を入れたことが公になれば其の人は

全然社會的の地位を失つてしまうと云ふのが亞米利加の習慣です。社會的には全然死刑の宣告を受けてしまうのです。この位公德心が發達した亞米利加でも、愛の贋造や性慾の亂用は矢張り盛んで、そして、花柳病を蔓延させて行くので、其の豫防策として、結婚に際しての健康診斷書の必要に付いての輿論はなか〳〵盛んです。其の結果既に其の法律を通過させた州も少なくありません。

比較的公德心の發達してゐる亞米利加に於てすら、猶、そうです。人が見て居さへしなければ、又は、人が見てゐても直接法律上の制裁さへなければどんなことでもやつつける、そして、花柳界に遊ぶことなどは男子の特種であるやうに心得てゐる我が國の大多數の男子が愛を贋造したり、性慾を亂用することはむしろ當然なことでありませう。

『豚に小判』と云ふ言葉がありますが、小判の價値を知る人間には自由に小判を使用させても、否、使用させるのが當然であります。けれども、小判の價値を見ることの出來ない豚が、人類の寶である貨幣を汚物と一所にかきまぜて踏みにじつてゐる時に

私共は其れを放任して置くに堪へられないでせう。
戀愛は美しい藝術品です。人類の活動の原動力です。故に、俗物が其れを亂用しないやうに法律の手をかりて保護する必要があるのです。
もし、萬人が戀愛の美しい藝術品であることを知り、結婚には社會的奉仕の義務が伴ふものであることを悟つてゐるならば、てんから問題は起らないものであることを御斷りして置かなければなりません。

性的教育の必要

責任觀念の皆無な男子が多いために齎らされる婦人と子供の難義を救ふために新婦人協會の結婚法改正に關する請願は當を得たものであることを私は信ずるものでありますが、勿論、結婚に健康診斷書が必要と云ふ法律が出來ても、凡ての人がそれを有效に利用するとも、亦、それによつて花柳病の全滅を期すことが出來るとも私は思つては居りません。けれども、これによつて此の方面の問題に關して世人の注意を引き

起すことは出來ます。それに付いては平塚氏も夙に云つて居られたことであります。

其處で、世人の注意が此の問題に集まつて來ると同時に性的敎育の普及を計る必要がありませう。性的關係の紊亂は靑年男女の無智無學が原因になつてゐます。結婚前の女子の墮落の原因は皆性的關係に付いて無智であつたからだと云はれてゐます。少女の無智をつけこんで誘惑し、生贄にするのが不良少年靑年の常手段であるのです。多くの靑年は惡いことゝは承知しながら不德行爲を實行します。始めのうちは良心に責められながらやつてゐるうちに、追々に惡友の感化を受けて平氣になります。そして、陷し易い無智無學な娘をあさります。其のうちには惡所へも足を入れるようになります。この性的關係のみだれが賣淫の原因です。實に此の賣淫の原因のうちには道德的の訓練のないこと、道德の二重標準、惡友、男性の强慾、及び、不健全な娛樂が數へられます。

此の頃亞米利加では『女子が恥辱や惡病から我と我が身を保護し得る智識を授けられずに、羅甸語や幾何學や古代歷史を敎へられるのは不合理も甚しいと云ふやうな意

見が盛んになつてゐます。そして、性的教育の必要に付いては大方の識者のうちに異論はないのですが、さて、其の方法はと云ふことに付いて皆頭を惱めてゐます。

性的教育の方法は

兩性關係のみだれや惡病の蔓延を防ぐために今日迄社會がとつて來た方法は、社會的疾患、則ち、賣淫を直接に攻擊することでありました。けれども、近年になつてから性に關する敎育の必要といふことが高調されて來たのです。其の結果、米國に於ては社會衞生、又は、性的衞生といふ名の會がいくつか設立されました。一九一二年には既に五ッ六ッの此の種類の國民聯合會の外に二十五の州立の、又は、或る地方での此の種類の會がありました。それ等の最初の仕事は、唯、單に、花柳病の豫防であつて、道德上の問題には全く觸れて居なかつたのです。と云ふのは、最初は唯醫學の立場からのみ此の惡病の社會的危險を見てゐたのです。けれども、實際にそれが影響する範圍はせん〳〵と明らかになつて來ましたので、今は前述の會の大柢が道德上の問

題に手を擴げて行かなければならなくなつたのです。

社會衛生會は、今、いろ／＼の方面に意義ある仕事を進めつゝあります。性的關係かみだれた結果の報告書のやうなものを男にも女にも、時とすると、子供に迄も配付したり、悪徳の危險、それが妻子に及ぼす悪影響等を說明したパンフレットを壯年男子のために造つたり、性的關係の結果の姙娠を說明したパンフレットを少女のために造つたりしてゐますが、殊に、少年少女のために印刷されたちらしには最大なる注意を拂つてゐます。

社會衛生、德義心の向上に關する講義が、今は敎育事業のうちの重要なものとなつてゐます。婦人團體のために婦人醫學者が性に關する講義を度々致しますが、男子の團體のための此の種類の講義は殆んど普通のやうになつてゐます。性的、及び、社會的衛生に關する根本的智識が親である男女に授けられることは、やがて、彼等が彼等の子供を敎へ得るから非常に有效であろうと信じられてあります。

又、此の頃、花柳病との戰ひを劇に仕組んで道德上の向上を計ろうといふことが企

てられましたが、併し、其の效果はまだ疑問中であります。多くの州の衞生局に於ても此の方面に活動を始めまして矢張りパンフレットで講義をしてゐます。そして、花柳病の危險や道德の二重標準の誤りや、性慾の節制が心身に害ありと云ふ說の詭辯であること、且つ又高き道德の標準が必要であることを敎へるに努力してゐます。そして、或る州の如きは花柳病の取締りを嚴にするために、花柳病患者は一々衞生局に報告しなければならない義務を强制的に負はされてゐます。

米國性的衞生聯合會の提案

けれども、前述のやうな運動の方法では徹底的に性的敎育を國民に普及することは出來ません。これを徹底させるにはどうしても一人々々の少年少女に直接に敎へなければなりません。前にも云つた通り、少年少女に性的敎育が必要であるか無いかと云ふことは今はもう問題ではなく、唯、彼等に敎へる方法が問題であるのです。どう云ふ風に少年少女の頭へ入れて行つたならば、彼等が此の性的關係を重要視し、嚴肅な

態度で考へるようになるか？　又、其の敎師は誰が最も適任か？　親か？　敎師か？　醫者か？　僧侶か？　と云ふことが問題になつてゐるのです。これは非常に重大視されてゐまして、今以てそれに付いての意見は區々であります。で、それに付いて米國の性的衛生聯合會は一委員を通して次のやうな案を提出しました。

性的敎育の目的は衛生並びに道德の向上を計るのであるから、其の敎育の方法が、好奇心を起させるやうであつてはならない。性的意識と性的感情を最小限度に保たしむるやう工夫しなければならない。そうするためには小學校に於ては人體解剖の詳細は避けなければならない。最初は其の基礎敎育として自然界の雌雄關係を敎へ、其の次には生物學と衛生學を課し、そして、凡ての科學的の課目には道德上の敎へを附隨せしめなければならない。

と云ふのです。そして、性的敎育を受ける子供を年齡によつて四種に分ちます。

一歲から六歲迄。六歲から十二歲迄。十二歲から十六歲迄。十六歲から成熟期迄。

そして、第一期、則ち、一歲から六歲迄は主に母の手で敎育される。第二期、六歲か

ら十二歳迄は植物や下等動物に付いて教へられる。つまり、人間の生殖に付いての智識を得る準備をするのである。そして、第三期、則ち、十二歳から十六歳迄の子供は哺乳動物の生殖から始めて、そして、それを人間の生殖にあてはめて教へる。同時に、彼等は性的道德に付いて、且つ、彼等自身の生理的心理的變化に付いて教へられる。それから、第四期、則ち、十六歳以上になると遺傳に付いて、性的道德と次代との關係に付いて、及び、花柳病の危險に付いて教へられなければならない。で、それ等の自然界の研究、生物學衞生學、及び、倫理學を別々なものとはせず、一貫したものとなし、そして、其の一部々々を一期のうちに教へるのである。

と、云つてゐます。そして、男子には男性教師、女子には女性の教師が適當であると云つてゐます。又、性の研究の專門家よりも正規の教員をよしとしてゐます。そして、教員を養成する師範學校や單科大學にも適當な教師を造るために性に關する課目を加へなければならぬと云つてゐます。又、初等教育中に退校した兒童のために夜學にも此の課目を課さなければならぬこと、及び、初等教育を受けつゝある兒童の中に

旣でに性に付いての智識を持つてゐるものがあれば、これ等の子供のために特別に授業しなければならず、又、男子よりも女子の方が一般に早熟であることも摘發してゐます。

又、年齢によつて大凡區別はして置くものゝ、兒童の發達程度には差のある場合があるから、それは熟練ある敎師の正確な判斷に待つて、授ける智識が兒童の發達程度より早過ぎても遲過ぎてもならないことを前述の委員は注意してゐます。そして、敎師の此の仕事を完成させるためには社會の情操が支柱とならねばならぬことを主張してゐます。少年少女が性に關する正確な智識を缺くために彼等が秘密裡に得る智識は彼等に大きな害を與へるものでありますから、よしんば學校に於ける性的敎育の方法が間違つてゐたにした處が、それでも其の方が遙かに害が少ないと云ふことが併せて主張されてゐます。

性的衛生聯合會の前述の案が一方にあると同時に、他の一方には學校に於ける性的敎育に反對する説も無くはありません。其の説によると、道德的の敎育が充分に施してありさへすれば性の敎育は不必要だと云ふのであります。けれども、これは健康の問題を全然道德上の問題から切り離して考へて居るものであります。そして、これは人間の習慣と道德が如何にして發達したかといふ近代の理論と齟齬してゐるものであります。正しい生活の利益を敎へると同時に、性的不道德が如何なる危險を作ふものであるかを高調する必要があります。惡化して行く傾向を遮るには道德的訓練を授けると同時に惡化した結果の恐しさをも敎へる必要があります。

學校に於ける性的敎育に對するもう一ツの反對論は、性に關する智識を得ることによつて、兒童は性的生活及び性的行爲に付いてまだ持つてはならぬ注意を持つやうになるかも知れない。そして、彼等はまだ心の奥にひつこませて置かなければならぬ問題を心の表面に浮べて思ひわづらうやうになるであらう。しかも其の智識を得た子供等は其の問題に對して輕浮な態度を持つたり、それを遊戯視したりして其の結果は全

然豫想外の失敗に終るであらうし、又、兒童が一人々々別々に敎へられる時と、集合的に敎へられる時とには其處に心理的の大きな差があるに相[illegible]ない。猶又敎師と生徒との間は親と子のやうに、或ひは醫者と子供のやうに親密でないから、この難しい問題に付いては、到底、有效に敎へ導くことは出來ない。この種類の敎育は全然家庭、又は、敎會の仕事であらねばならないと云ふのです。

けれども、現に花柳病の蔓延が追々甚しくなつて來てゐること、そして、家庭と敎會が此の問題を取扱ふことに於て全然失敗してゐることが、學校に於ける性的敎育の必要を高調せしめたのです。けれども、それに適した敎師を得ることが困難なので、亞米利加に於ける多くの州に於ては州立師範學校に此の課目を入れました。ワシントン州ではそれが强制課目になつてゐます。そして、小中學校に於ては性的敎育を施す施さないは、其れに對する適當な敎師の有無によつて定まる問題となつてゐます。

シカゴの公立學校ではこれを實驗しようとしました。それは我が國の中學或ひは女學校と同程度の學校でありましたが、男生徒と女生徒とを別々にして、そして、醫者

が講義をすることになつたのです。そして、それは隨意科でありまして生徒が出たくなければ出なくてもよし、又、兩親が欠席させたければさせてもよいのでありました。すると、此の講義に出席しよ〻とする僅かの生徒も兩親から差しとめられたり、又、學務委員逹の間に意見の不一致があつたりして、遂ひに其の講座は廢されることになりました。そして、其處迄に運びが付いたのに實驗されなかつたことは遺憾であると云はれてゐます。

多くの外の公立學校に於ては敎師が個人として此の問題に付いての智識を授けようとしてゐると云ふことです。併しながら、學校に於ける性的敎育は中等程度の學校よりも小學校に於てよりも多く成功してゐると云ふことです。其の小學校に於ても六年級から上になると非常に困難になつて來るので、むしろ、子供の心が性的の何物をも考へない時代に於て與へた方が却つて得策であろうと云はれてゐます。大抵の子供は十歲或ひは十歲以上になれば性に付いての智識をいくらか持つようになるからして、もし、彼等を道德的に保護しようとするならば相當な指導を受けさせなければならな

いと云はれてゐます。

いづれにしろ、この仕事が全然學校の義務であるかどうかと云ふことに付いてはまだ定論がありません。むしろ、これは家庭の仕事に屬するものであつて、兩親がそれに付いての適當な敎育者であらねばならぬと云ふ說も可なり有力であります。同時に威嚴ある學校での經驗が其の無害であることを證據立てならば此の難しい厄介な問難を取り扱ふに付いての方法が發見されたわけであります。

性的敎育に對する米國敎育當局の態度

先づ大柢の親は子供の前では性の問題には觸れないようにしてゐます。『うちの赤ん坊は何處から來たの?』と云ふ子供の質問に對して親は其の答へを避ける工夫をするか、或ひは、積極的な噓を敎へるのが普通になつてゐます。そして、其の結果は子供が性に付いての第一の智識を無學な無責任な下女下男か、又は、遊び友達から得て來ます。と云ふのは親自身が性的生活に一定の威嚴を持つてゐない、從つて、此の問題

に付いて子供に適當な說明を與へることが出來ないのです。親と子供の間は最も親密であるものですから、實は、子供が正しい態度を持つて質問を起した時には親はそれに對して正當な說明を與へなければならない筈だと思ひます。其處で亞米利加などでは此の問題に付いて自覺ある識者及び團體は講義に於て、パンフレットに於て親を敎育することに努力してゐるのです。ですから、もし、まだ、親にならない青年男女が性の問題に對する正當な智識を獲得し、そして、親になる準備を持つてゐたならば非常に都合がよいに相違ありません。

米國の敎育當局者は此の方面の專業のためには　制限に資金を與へ補助をしてゐます。此の種類の講義のためには諸學校は喜んで其の講堂を開きます。そして、講師や敎師をも供給する方針をとつてゐます。

けれども、何世紀も〳〵の間性の問顏に對しては同じ態度を持してゐた一般の感情が一朝一夕で變るものでないといふことは私共の考へ得ることであります。ですから先づ、除々と新しい思想の土臺を建設するために適當な方法のもとに兩親を敎育する

ことが差し當りの根本事業でありませう。各家庭に於て醫者が子供に其の智識を授けると云ふ提案もありましたが、併し、普通の家庭では醫者と子供が親密である程、さう醫者に接近してゐないものでありますから、これも、あまり望みのある方法ではありません。

性的敎育と敎會

敎會は嚴格な道德の標準を高くして行くのが其の仕事でありますから、この性の問題を避けることは出來ない筈だと、亞米利加に於ては云はれてゐます。現代の男、及び、女を精神化し、向上せしむべき今迄の敎會の仕事は豫期されてゐた程效果が擧がらなかつたといふのが定評であります。そして、其の失敗の原因は、今日に於てまだ古代の方法が日曜學校に於て用ひられてゐること、そして、實行的の宗敎が無視されてあつたからだと云はれてゐます。

日曜學校は、獨斷的な神學から應用宗敎の問題へと力の入れ處を換へて行つて、そ

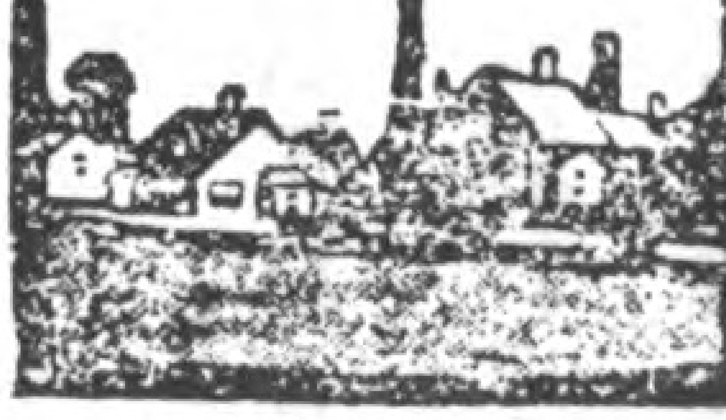
して、實際的效果ある方法を選み、資格ある敎師を招聘し、課目の標準を高くし、生徒を級に分け、準序よく敎へを進めて行かないことには、到底、其の成功は覺付かないと云はれてゐます。そして、かくの如くに改革して行くならば、自然、性の問題に對する正當な態度も出來て來るし、そして、少年青年男女に適宜な敎へや忠告を與へることが出來て來て、彼等の道德の標準を高めさせ、引いては健康的な生活を鼓舞することが出來ると云ふのであります。

性的生活とは無關係に抽象的な道德の敎へにのみ其の仕事を限つて、そして、性的敎育問題は敎會にとつては避け難きものであると云ふことを忘れてゐることは、やがて、敎會の生命を危險にする。敎會は性に關するやかましい問題に解決を與へる一ッの重要なる位置を保たなければならないと云ふ說もあります。



男子の婦人論

河田博士とミル



　河田博士のお名は實はもう隨分前から存じ上げて居ります。私が未だ自分の考へを世間へ發表し始める前、もう六七年も前の事ですが、私は河田博士の『婦人問題』を手に致しました。そして、其の御著作の例言を讀んで博士の婦人問題に對する本當の眞面目な嚴肅な態度を見せて頂いて私は非常な力强さを感じました。殊に其のうちの一節『婦人問題の內容は蕪雜にして多樣なり。其の包含する所は、汎く政治經濟の實際問題より延きては敎育道德の根本問題に及び、人生々活上の各方面は直接間接に一として之に關聯せざるは莫し』は實際當を得た御觀察だと思つて居ります。

　婦人問題と云へば婦人に關する事計りであるやうに淺薄に考へてゐる皮相な觀察家が世間に少くない時に當つて博士の如き正しいお考へを御持ちになつた方がある事は本當に私共婦人問題研究者に取ては非常な强味で御座います。數ある社會問題のどの一ツにでも婦人問題が縱に横に關係してゐないものはありません。それは其の筈では御座いませんか。婦人

が無かつたら第一人間其のものが無くなつてゐるのですから。

其の後の河田博士の御議論には、忙しい日を送つてゐる身であるものですから、殘念ながら多く接する機會を得ませんが、折りに觸れ、時に觸れて拜見する御議論は實際正確で緻密で本當に學者らしい御議論であるといつも感服して居ります。それから同じ『婦人問題』の例言のうちに河田博士は、倫理的基礎に就きては碩學ジョン、スチユアート、ミル氏の論せる所最も人をして首肯せしむるに足るもの有り。吾人は曾て The Subjection of Women を一讀して案を打て叫ぶを禁じ能はざりき。是ある哉と。吾人の婦人問題に對する態度は之に依りて定りぬ。爾來吾人の所信は牢乎として拔く可らずと仰有つてますが實際ジョン、スチユアート、ミルは我が學者の一人河田博士にならはれる價値がある學者です。

河田博士の婦人問題に對する態度を決せしめたジョン、スチユアート、ミルは私共婦人が決して忘れてはならない名です。彼の女權擁護の大獅子吼が女權の延長に貢献する處は決して少なくなく、其の巧績と名聲は動かす事の出來ない不朽なものになつてゐますから。

或る一つのものが出來上るには必ずそう云ふものが出來上る理由があります。外面からは全く偶然のやうに見へますけれども、內部に立ち入つて研究して見ると必ずそうならなければならない理由が存在してゐるものです。ジョン、スチユアート、ミルが女權擁護のために大獅子

吼を擧げたに付いては、又、そうなければならなかつた大きな理由があるのです。

ミルは非常に嚴格な、過酷に近い父に育てられて殆んど自分の父の外は友達を持つ事が出來ませんでした。云ひかへればミルは子供時代と云ふものを持つ事が出來なかつたのです。普通の子供のやうな無責任な幼年時代少年時代の生活を味ふ事が出來なかつたのです。彼の父は娯樂の効用を認めません。ですから幼年時代に子供らしい喜びがミルの前に現れた時、これを享樂するのは幼年及び少年の權利ですが、頑固な信仰を持つてゐる彼の父がいつもミルを押へ付けて其の喜びをミルに許しませんでした。其のためにミルの生活は實に冷やかで、まるで凍枯したやうなものとなつてしまひました。

其の結果、ミルは智力上の秀越のみが人生に價値あるものだと云ふやうな信仰を持つやうになりました。けれども、長じてからウォズオスを讀んで其の信仰に反抗心を起し、人は頭腦のみによつて生きられるものでないと云ふ考へが彼の全心をゆり動しました。そして詩人ウォズオスの感情の敎養と云ふ事に彼は感應して行つたのでした。それから直き後、彼はテーラー夫人に出逢つて彼女の女らしい氣高い人格に接し、彼女の美しい同情に浴し彼の心は喜びにふるへるのでした。そして、其の同情は彼の想像の力によつて一層美しく、豐富にされ、彼は彼が捧げ得る全部を彼女に捧げやうと思ひ

ました。ミルは彼女のみがウォズオスの歌つたもの、則ち、かんばしき感情を加味した思想の生活を彼自身に與へ得ると感じたからです。

ミルはテーラー夫人並びにテーラー氏と非常に親密な間柄となつて、いつも三人一所に讀書したり研究したり著述をしたり時には或る問題に付いて論じ合つたりしてゐました。其の美しい交際が二十年間續いた後一八四九年七月テーラー氏は死ました。で、それから三年計り後テーラー夫人はミル夫人となりました。けれども、二人の理想的な幸福な結婚生活は僅に七年間でした。ミル夫人は死んでしまつたのです。で、ミルは彼の自傳のうちに次のやうな事を云つてゐます『私の書いたものの凡ては私の著述であると同時に妻の著述である。年月が進んで行くに從つて私のうちに潜む彼女の力はます／＼大きく現れて來る、一言で云へば私は彼女の唯解釋者に過ぎない。彼女の思想を社會に紹介する私は唯仲介者に過ぎない。』と

ミル夫人は恰もミルの宗教のやうであつたのです。彼は又彼の『自由の理』のデディケーションに於て次のやうに云つてゐます。『もし、彼女と共に埋められてしまつた彼女のあの偉大な思想と貴い感情のせめて半分を私が世界へ紹介する事が出來たならば、私が私一人の力でどんなに偉い作を現しても、それは到底前者に及ぶものではない。』と。かほど迄にミルが崇拜してゐる婦人、美しい其の心情、氣高い其の人格を持つた其の貴い婦人

が、唯女性の故を以て社會的の位置を與へられない、社會制度が壓迫を加へてゐると云ふ事の不合理をミルは非常に鋭く感じたのです。自分の父に自分が壓迫を受けてゐた事に聯想して猶一層强く其れを感じたのです。

彼が『自由の理』を書いて人間の道理の自由を主張したと同じやうに或ひはそれ以上に强く婦人の服從を感じたのです、そして、河田博士に非常な感激を與へたあの"The Subjection of Women"を通じて婦人の自由を絶叫したのです。そして、これは今より殆んど七十年も前の話で、其の後英國の婦人界は急速の變化を來してゐるにも拘らず。我が國の婦人界は河田博士も云はれる通り、ミルの其の時代よりも未だ一層甚しい屈從の狀態を續けて居ります。勿論、これは一般英國婦人の智力が我が日本婦人の其れに優さつてゐるには相違ないのですが、誰でも一度目を開いて今日の婦人の狀態を見るならば河田博士に同感せずにはゐられないでせう。

この女權擁護、女權延長に付いて私達はミル並びに河田博士に大いに感謝せねばならないのですが、それと同時に私共婦人はミル並びに河田博士にいさゝか不足が無くはありません。ミルは餘まりに婦人の市民としての自由を絶叫するに急であつて、戀愛的、及び、社會的に婦人を解放する事を忘れてゐたやうな傾きがあります。そして、米國、英國、スキヤンデネビヤ及び其の他の婦人論者の大抵もミルのこの市民としての婦人の權利を

主張すると云ふ宣言を婦人運動の信仰箇條にしてゐます。そして、私の寡聞が未だ知り得ないのかも知れませんが、とにかく、私の知り得た河田博士の御議論も、矢張り、其の範を出て居られないやうに思ひます。そして、博士の御議論は前にも云ふた通り非常に正確で緻密で本當に學者の本領を現しては御ゐでになりますが、どうも熱が少ない私共婦人から見ますと痒い處へ手の屆かない恨みがあります。理屈でだけ婦人問題に御同情があつて感情は其れに伴つていらつしやらないではないかと云ふ點があるやうに思ひます。

又、河田博士が婦人の小さい意味に於ての權利を、たとへば婦人參政權或ひは職業の自由又は勞働婦人の團結の自由とか云ふやうな事を重に論ぜられて本當の婦人の社會的解放、則ち、女性本來の使命を發見して其處へ歸らしむる方法を忘れて居られるやうな觀があるのをもの足りなく思ひます。つまり、服從の結果であつた、或ひは、副産物であつた婦人の勞働を其のまゝ批准して、唯、このまゝの狀態を改善しやうと仰有つたり、又、その改善の手段として參政權を主張されたりする處に私は御同意出來ません。

前にも申ました通り、今日の婦人の勞働、又は、參政權は決して婦人の社會的解放ではありません。其れは、むしろ、隱然服從の事實を承認するやうな事になりはしないかを私は忘れます。これは私の博士に對する誤解かも知れませんが一般男子の先輩並びに婦人評論家のうちに

も單に智力的の方面にのみ注意し過ぎて、從つて、政治上、法律上、乃至は經濟上の自由を得る事を主張するに止まつて眞の婦人の使命を無視して居られるのが餘まりに多いので博士も亦其のお一人ではないかと思ふのです。其の反證をツイ見ないものですから。

　婦人の社會的解放とは其れ等の自由に超越したものです、政治上、法律上、經濟上の自由は確に智力上の資格が必要です、智力が少なかつたならば自分自身を保護して行く事が出來ません。智力の少ないものはどうしても智力の多いものに服從しなければなりません。勿論、自身を向上させるために智力は必要には相違ありませんが、併し、この資格が無ければ一人格者としての價値が無いと云ふならば智力を得るに男子よりは不利な位置にいつもゐる一般婦人はいつ迄も一人格者としての資格を持つ事が出來ません。

　婦人を服從の位置から救ひ出すには如何なる婦人でも貧富を問はず賢愚を問はず必ず得られる權利でなくてはなりません、そして、それは母としての婦人の位置を認める事です。母としての婦人が其の使命を果す時には何ものもこれを制限する事が出來ないやうにする事が婦人の社會的の解放です。云ひかへれば社會が婦人の母性を婦人の最大なる使命と認める事であります。この母としての權利を婦人が社會に認めさせる事が、則ち女權の回復です。これが婦人問題の第一義のものです。參政權や經濟上の獨立に反對する必要はありませんが、併し、それは

婦人問題の第二義のものである事を知つて貰はねばなりません。社會が婦人の此の母としての權利を認めた時には他の問題は其の母權擁護と見て、先づ、差し支へないと私は思ひます。

ミルに付いてもう一言付け加へて置きますが、彼の"The Subjection of Women"は彼の著書のうちで分量から云へば少さいものです。が、これはミルの一生にとつては實に一大革命的思想の表現であります。自由と正義を歴史的及び心理的に見れば其れは法律に從ふ事によつて創造されると云ふ意見をミルは持つてゐたのですが、彼は"The Subjection of Women"に於て其れをくつがへしてゐるのです。則ち、眞の自由と正義は個人關係から出立するものであると云ふ一層正當な見解を彼は持つやうになつたのです。

併しながら、同時に私共が記憶せねばならぬ事はミルの婦人論には二つの缺點があります。それはミルの情緒の缺乏でもなく、又、智力上の偏見でもありませんが、そして、それはミルの時代の特長であつたのですが、彼は勞働婦人並びに中流階級の先づ普通の婦人の狀態を組織的に研究しませんでした。彼は唯天才の婦人のみを見てゐたのです。これは實にミルの婦人論には玉に疵なのです。平凡な普通な婦人に對する智識の足らなかつた事、そして、其の平凡な婦人が各家庭に於て偉大な仕事をしてゐると云ふ處に彼は氣付かなかつた事です。

ミルはこの點を殆んど全く無視してゐましたが、其れに付いてはスペンサーの

方が一歩進んでゐたやうに思ひます。スペンサーはミルの"The Subjection of Women"が出る殆んど二十年前に婦人の服從と云ふ事を非難してゐました。そして、子供の服從と云ふ事をスペンサーは既に論じてゐました。スペンサーは、婦人が選擧權を持たねばならぬのみならず、生活の組織としての及び人格の訓練としての家庭は當然消滅すべきもので、そして、自由平等の正義は子供に迄延長すべきであると云つてゐます。勿論、スペンサーの家庭の消滅云々と云ふ處には同意致しませんが、彼の子供の權利云々と云ふ處は確にミル以上に進んだものであると私は思つてゐます。

不平等

ソロガブ

庭のかげは樂しさうだ
　この庭の持主は金持ちである。
けれども垣根の外に
　貧乏は遠くない。
其處に子供は遊んでゐる
　夕方の星のやうに輝いて。
荷を負ふた子供が
　垣根越しに眺めてゐる。
直ぐに石ころだらけの道を
　義務にせまられて
彼は步むだらう
　苦しさと忍耐とを
胸のうちにつゝんで。
　人間の不平等を
深いにがい嫌惡の中に
　見ることは
何と云ふ苦痛であろう。
　何と云ふ苦痛であろう。

京都と學者

私は去年の秋始めて京都を見ました。京都の美しいと云ふ事は度々聞かされて居ましたが、併し、實際に見た事がないものですから、私の實感は日本と云へば東京及び東京附近であつて、そしてそれがガサ〳〵したものであつて、落付きのない無趣味なごみ臭い、これが日本だと思つてゐました。

亞米利加にゐて東洋人種が非常に虐待されて、日本人などはまるで眼中に置いてゐない亞米利加人の態度を知つてゐるものですから、時時亞米利加人が日本は美の國だとか自然の公園だとか日本の着物は美しいとか云つてほめるのを聞いて『まあ、日本へ來たと思つてカラ世辭を云つてゐる。』位にいつも思つてゐました。

處が、今度京都を見て始めて其れがカラ世辭でないと云ふ事を知りました。あの大建築、あの大美術、あの自然美、本當に私はこの年になつて始めて日本と云ふ國が分つたやうな氣がしました。破産しかゝ

つてゐると思つた自分のうちが案外鞏固な基礎の上にしつかり立つてゐたと云ふやうな喜びを得ました。

けれども、京都の人は因循であるとか、頭が古いとか、ねばッこくていけないとか云ふやうな事を聞いた事がありますが、京都の人がそうなる理由が無くはないと思ひました、なぜなら過去の偉大さには押しつぶされ、自然の美には酔はされてゐるのですから、人は遂には不活潑になつてしまうでせうから。

其處で、京都に住む學者達はどうであらうか？　矢張り一般人と同じやうに過去の重味に押され、自然の美には酔はされてゐられるのであらうか？　と私は考へないわけには行きませんでした。

京都と云ふ處は人間の智力的活動にとつては三ッの邪魔物があると思ひます。それは前にも云ひましたが、偉大なる過去と、風光明媚と云ふ事と、もう一ッは産業主義の勢力であります。もし、京都の人が此の三ッの催眠術にかゝらなければ京都は人の智力を發達させるに非常に都合がいゝかも知れません。なぜなれば東京のやうに餘ま

りに多くの俗の刺戟がありませんから落付いて研究が出來ると思ひます。けれども京都の風光明媚はどうしても人の努力を消ぐやうに思ひます。

又、一方には加茂川の水は產業主義のために濁されてゐます。宇治川の景色は煙突を背景に持つやうになりました。嵐山は營利の徒の遊園地となつてしまいました。日本の藝術の標本であり、同時に日本の誇りである京都佛閣と其等を滿してゐる寶物は商業化せられやうとしてゐます、或ひはこれを人は寶物の解放と云ふかも知れませんが、私はそうは思ひません。つまり、產業主義の影響のために京都は京都の使命を沒却してゐはしますまいかと思ふのです。

が、これは止むを得ない事かも知れません。日本の產業の中心である大阪が京都の門外に佇んでゐるのですから、其處で、京都の學者が自然美に醉はず、產業に追從される事なく其の使命を全うされる事を私は切に希望致します。つまり、京都の學界が京都特產の一個の友禪染になられない事を私は希望するので御座います。



旅の日記から

原田琴子

第一日

汽車が須賀川を通る頃に日は暮れた。次第に山深くなる旅路の淋しい空に、夕月が白く浮んでゐた。

私は薄い毛布に體をつゝんで車室の片隅に坐つてゐた。たつた一人で青森まで行くといふこの旅がうれしくもありさびしくもあつた。がそれは汽車の停る度にふと思ひ浮ぶ感情であつて、汽車の動いてゐる間はうれしいともさびしいとも特に思ふひまがなかつた。私はたゞぼんやりと窓の外を眺めたり、來り合せた乘客の姿を眺めたりしてゐた。そして少しも退屈ではなかつた。夕飯は敎へられた通りボーイに頼んで二皿ばかりの洋食を運んできて貰つた。福島をすぎてから、おばあ様に拜借してきた旅行用の枕を出して旅愁に惱められぬうち、早く夢路に入らうがため、なが／＼と横になつた。汽車の震動がうと／＼と心地よい眠りを誘つた。

「仙台！仙台！」



といふ呼び聲とつゞいて聞えるにぎやかな人の足音とにふと夢を覺されて目を開けば、あかく／＼と灯の輝やく、かなり大きな停車場が窓の外に見えた。私の室から下りる人もあり、大きな旅行鞄なぞを抱へて新たに乘り込む人も大分あるらしかつた、が私は疲れたためでもあらう何の新らしい興味を求める元氣もなく、再び汽車が動き出すと同時にうつら／＼と見つゞけた夢のあとを追うた。

第二日

夜の明けたのは何處いらであつたか、汽車は草の葉に朝露のかゞやく平原を風をきつて走つてゐた。淺虫の停車場へ下りた時はまだ霧が深かつた。客待ちの番頭に導かれてうしろの山を見返りながら私はすぐそこの東奥館まで歩いた。

案内されたのは二階の海に向つた室であつた、朝の海は靑く晴れて強い浪の音がたえずきこえてくる、私はすぐ着物を更へて何よりもまづ汚れた手足を洗はうがため階下へ降りた。そしてこの海邊の温泉に疲れた體を浸してからゆつくりと朝飯についた。まだ汽車に乘つてゐるやうな氣持ちがした。

今日といふ日を約して私はこゝに秋田から來られる先生方を待つてゐるのであつた。今朝どんなに早く尾吉澤を立つにしてもこゝへ着くのは午後か恐らくは夕方になるであらう、左樣思ふと私は急にもどかしくなつた。如何してそれまでの時間を過さうかゞ問題であつた。安着の葉書をかいて



町の見物かたがた郵便局まで出しに行つたり、海岸の方へ歩いて貝を拾つたりしたもの丶妙にそぐはないさびしい想ひがした。洋傘を肩にかざして私はまた宿の方へ歸つた。日が高くなるま丶にさすがに暑さが覺えられた。けれども海から來る風は氷のやうに冷たかつた、そして向ふの山の木立からは朗らかな鶯の啼き聲がきこえた。

町といつても忽ち歩き盡してしまふ小さな土地で、別に何の見る處もないらしいので午後からは宿に居て、たゞ青森からの汽車が着く毎に停車場へ出かける事を仕事にした。幾度か徒らに通過する汽車を見送つた後四時幾分といふ上り汽車で私は先生の一行をむかへた。改札口から吐き出される群集の中に旅慣れのした先生の白い洋服姿を見付けた時、大きな赤い林檎を一つ手に提つてゐるTちやんを見た時、私は我しらずほつとした。がすぐに驅けよつて言葉をかけやうとはせずに默つてたゞずんでゐてむかへた。

第三日

昨夜はいかにも佳い月夜であつた。私達はヴエランダに毛布をしいてチヨコレエトをかぢりながら遊んだ。小さい人達がそれ〲床について眠つてしまつてから、先生と奥さんと私とは夜を更して話し合つた。それなのに今朝は早く起きて出立の支度をしなければならなかつた。

浪の音や鶯の啼き聲やさては折々何處からか耳に入る東北辯の調子にも淡い名殘りが惜まれた。



きのふ拾つた貝はハンケチに包んだまゝ鞄の隅へ入れられた。宿の玄關の前にいつも待まつてゐる大きなブルドッグに向つてTちやんはしきりに「さよなら」をした。私は洋傘で石を蹴りながら默つて停車場の方へ歩いた、汽車に乗つてからもとかく言葉少なに控へてゐた。

きのふ私が通つたと同じいその路を私達の汽車は疾走した、見れば野は緑に輝やいて、夏の赤い草花が所々に咲きこぼれてゐた。車室には乗客が少なかつた。そして車の動搖が激しかつた。

正午に私達は盛岡へ着いた、今夜はこゝへ一泊する筈なので私達は停車場から程近いみちのく館といふに宿をとつた。日中は暑くもあるし皆疲れても居るので日暮まで休息してから夕飯後に町を見物することゝした。今夜は丁度舊暦のお盆であつた。

通りは路幅も廣く、並木の棈が青々として涼しかつた、白い縮の浴衣を着て黒いメリンスの帶を結んだTちやんは埃を立てゝまつさきに驅け出したかと見る間に立ち止まつて、アイスクリームをせがむのだつた。がそれのありさうな家は一寸見當らなかつた。人通りはかなりにあつた、この近在の娘達であらう、新らしい浴衣に赤い帶を結んだ若い女達がゾロ〱と歩いてゐた。とある家の軒先きでは白樺の木を焚くのが見えた。

私達はまづ城趾を訪れた、石垣にまつはる蔦の葉が夕暗の中に微かに戰ぐのを見た時はいひしれぬ感慨を覺えた。



盛岡の城趾に生ふる靑づたの
心にしたし夏のわが旅

その昔の御本丸であつたといふあたりにはアーク燈が淋しく點いて、人の姿も見えなかつた。あやふげな段々を昇つたり、氣味の惡い木下道を辿つたりしてソロ〳〵足の重くなる頃に私達はまた街へ出た。暗い淋しい公園と違つて通りは非常な賑ひであつた、かゞり火が熾に燃えて人通りも多かつた。名も知らない町をあちこちと歩くうちにTちやん一人ではなく私達は皆アイスクリームが欲しくなつた。けれどいくらたづねてもそれは得られなかつた。重い足をひきずつて宿へ歸らねばならなかつた。

第四日

盛岡を立つたのは早朝であつた、そして數時間の後に私達は平泉の停車場へ下りた。そこから中尊寺まで馬車で行く街道の眺めはうれしかつた、綠の野を吹く風の凉しさ、並木の枝ぶりの面白さ野を貫いてひゞき渡る馬車の笛の音の心地よさ、私は窮屈な車の中でしみ〴〵と旅のたのしさを感じた。胸の中の汚はしい部分が皆洗ひ去られるやうに思へた。

馬車を降りて後、蔚蒼と茂つた木立の間の坂道を本堂まで昇るのは大分骨が折れた。本堂は先年燒けた後に建てたものださうで、まだ屋根が新らしかつた。十人餘りの僧侶があだかも勤行の最中



であつた。私達は裏手の方へまはつて冷たい一杯の水を乞うた。つく〴〵旅人らしい思ひを以て私は自分の姿を觀た。

案内者の説明を聽きながら光堂や三月堂も觀た、五月雨のふり殘してやの句を刻んだ碑銘の邊りには夏草が茫々と茂つてゐた。四邊は寂として人聲一つしなかつた、私は遠いふるさとのことも東京の友達の上をも忘れはて丶、ぼんやりと草の上に坐つた。まことにいこふべき一軒の茶屋すらもこ丶には見出せなかつた。私達は携帶したビスケツトやチヨコレエトでお晝をすまさればならなかつたがほんさうに旅らしいのびのびした氣持がした。けれども私達はゆつくりこ丶に休んでゐる餘裕も持たなかつた。急いで山を下りて再び平泉まで馬車に乘り、平泉から更に仙台までの汽車に乘らなければならぬ身であつた。まさに發車しようとする汽車の窓から平泉の山野を見送つた時は旅愁ともいふべき淡いかなしみの念に打たれた。

習慣は恐しいもので、其の習慣に抵抗しやうとする人の性質を鈍らせて墮落させる。殊に女の場合には其れが猶一層甚しい。彼女等は墮落を名譽と考へるやうに教へられてゐる。

（ミル夫人）

落穂集

■堺利彦氏は『新社會評論』の『電車ストライキの悲痛』と題する文の中の一節に次のやうにお書きになりました。

『多くの新聞紙は電氣局長や警視總監の高壓的な威嚇的な言動を報知するに急である。そして『識者』は盛んに、罷工者が市民に迷惑をかける事を批難してる。俸給者組合の顧問たる河津博士すら、大いに罷工者の背理を責めてる。山田わか女史の如きは、『軍人の手を借りたい』と云つて、鐵道隊の出動を哀訴してる。勞働者の戰鬪の困難が思ひやられる。我々は只だ我々の無力を耻ぢる。』

そして、又、

『智識階級の婦人運動が聊か活氣を呈して來た現象に對して、我々が多少の興味を持ち希望を囑してゐる事は前號にも記した通りである。然るに折角の賣出し婦人たる山田わか氏が前段に記す通りの次第であり、平塚明氏なども舊政治家の選擧運動の應援をしたりするのでは、興味も醒め、希望も消えて了ひそうだ。

私は山田氏とは可なり懇意であり、平塚氏とも多少の交りがある。然し公けの事柄については、遠慮のない批評をする。』

と云つて居られます。けれど、私は個人の權利と云ふものは社會の便宜が批准して始めて確立するものだと信じます。ですから、個人の權利は團體の權利に、團體の權利は公衆の權利に一歩讓らなければならないものだと思ひます。其處で、或る團體が公衆の利益を無視して行き過ぎようとする時にそれを喰ひ止める方法を講じるのは當然であると思ひます。と申しても私は勿論正當な個人の權利や團體の權利を無視するものでないことをお斷りして置かなければなりません。

■與謝野晶子樣より。毎度お雜誌を頂き忝く存じます。こゝに一度に御禮を申上げます。

さて六月號の貴方樣の御文中に『一度與謝野氏は、人間の肉體を分析して細胞にすれば、男の細胞も女の細胞も全然同じである。だから男と女とを區別するのは不正であると云ふ樣なことを主張して居りましたが』

と云ふ一節があつて、私は非常に驚きました。私は決してそのやうな滅茶苦茶なことを申した覺えがありませんから、何かの御考へちがひであらうと存じます。之には大分迷惑を感じますから、次號で全然御取消しを願ひます。私がさう云ふ風な考を持つて居るやうに貴方樣から考へられて居るとすると、私と云ふものを貴方は少しも眞面目に見ておいでにならぬと云ふ事になります。私の書きますものは隨分粗末なものですけれども、あのやうな事は一度も述べなかつた事を斷言いたします。若し何か確かな御記憶がありますのなら、私のどの文章にあるかを、一寸お示し下さいまし。

右のお取消しのお願ひまで、草々拜具

與謝野樣のこの御手紙を拜見して私も少なからず驚きました。與謝野樣の其のお說は私がそれを讀んで以來始終私の頭にこびりついてとれる時がなかつたのです。それを書いて御抗議があるなどとは夢にも思つてゐなかつたものですからどの雜誌の何月號であつたかをツイ調べずに書いてしまつたのです。雜誌を開くと二段組みになつた右側の頁の上段で其のお文章の二節目にそれがあつたことまでは覺へてゐるのですが併し『太陽』であつたか『婦人公論』であつたかゞはつきりしないのです。けれど。もし、そんな筈はないけれども萬一私の考へ違いであつたのでは何んとも申わけがないと思つて、其の御手紙は朝の七時に來たのです、すぐ戸棚のものをみんなひきずり出して見ましたけれどもあいにく古い太陽や婦人公論はいくらもありませんでした。

その日は日曜日でしたし、しかけてある仕事も今が今と云ふ程差しせまつたものでもなかつたのでとりあへず『太陽』を調べて見るつもりで大橋圖書館へ馳せつけました。處が圖書館は調べものには全く不適當でした。婦人室へ入つてベルを押してボーイを呼ぶのですがなか〳〵ボーイは來て呉れません。三十分もしてからやうやく來ました。二年間の『太陽』を見せて呉れと云つて賴みましたけれども、一度に二册以上は出せない規則だそうです。處で其の二册を特つて來る迄に又二十分間はかゝりました。パラ〳〵ッとそれを二分間位ひで見てしまつて其の次の號と取りかへて貰ふためにベルを押しても矢張り三十分も待たなければ出て來て呉れませんやうやく來て、見てしまつたのを渡して

後を賴むのですがそれを持つて來るに又三十分位はかゝりました。私は唯待つのでくたびれてしまいました。一日暇をつぶしても幾册も見ることが出來ないのです。

とう／＼與謝野氏のお文章を探し當てることが出來ないで歸宅してしまいました。そして、與謝野氏にすぐ手紙を書きました。其のうちには探し出すつもりでゐること、もし、私の考へ違ひであると云ふことが明らかになれば改めて御わびすること、議論の上でこそ時々失禮であるやうなことを申上げることもあるが、併し、一個の婦人として與謝野氏が我が婦人界の光りであり誇りであることを私は承認してゐるものであること、及び、私が與謝野氏を眞面目に見てゐないなどゝはとんでもないことで、私と云ふ人間はたとへ猫の子鼠の子のやうなものに對してゞさへ決して不眞面目な態度がとれないものであることを御承知置き願ひたい、と云ふやうな意味を申上げて置きました。其の後何とかきまりをつけなければすまない／＼と思ひながら、七月號のもので時間がギリ／＼に切迫してしまつたためにツイ其のまゝになつてゐます。しばらくの間の御用捨を與謝野樣に御願ひして置きたう御座います。（六月十一日）

■江渡幸三郎樣より。雜誌を拜見しました、「繼母に就いて」は、大體御同感致し升、之れに就き、今一度御伺ひ致し度くあり升、實際上、この問題の起るは、日本の誇りとする家族制度の下だらうと思ひ升、で、他人なれば、事なく「家族の一員」として、一家內で調和の出來る關係も、却つて、繼母子なるが爲めに、其處のこころが圓滿に行けなくなり、從つて、子供が「子として親に對する義務」を持ち得なくなり、色々の家庭內のゴタゴタが、よくかくして生ずると思ひ升、これは、事實上、日本の家族制度にヒビが這入つてるのをあらはして居ることだと思ひ升、其處で、前には、親子の關係の方面から見た繼母子の問題を、今度はこうした家族制度の上から見た關係の實際問題として、今一應御考へを御聞かせ下さい、――これは、養子制度などと一緒に、家族制度の單なる理論的批判といふよりは、モット、日常生活に重要な問題である實際的批判となると思ひますから、特に御願ひ致し升、私には私の考へも多少はあるのですけれども。私の知つて居

ろところで、老病の父を殘して、兄弟三人家出をした家があるのです。

繼親子は本當の意以の親子でないと斷定致します以上、お說の通り我が國の誇りとする家族制度にはヒヾが入つたやうに思へます。けれども、繼親子は例外であつて一般は矢張り眞實の親子であることを考へなければならないやうに思ひます。眞實の親子であれば子は親を慕び敬ふのが通例でありますから代々それが續いて矢張り祖先崇拜と云ふことは行はれ得ることですし又美しいことであるに相違ないと私は思ひます。唯今迄のやうにかたちに計り重きを置いて內容を無視し其の形式を保存するために個人の滅亡を招ぐやうなことがあつてはならないと思ひます。ですから從來の家族制度は此のまゝでは今後困つたものであることは明瞭であります。これは大問題でありますから其のうち暇を造つてゆつくり書いて見ます。

■濟水仙一樣より。

先生、私は未婚の男子で結婚の實生活については全くの靑二才です。しかし私は人生の意義人類の理想社會の理想を考へるとどうしても先生の御意見に感謝しなければなりません。私は婦人と新社會を創刊號から一度毎にます熱度をもつてつゞけて拜見してゐます。私は同じ意味に於て島村民藏先生の「子供の國」についても多大の興味と共鳴を有するものであります。そうして私は色々考へて見ました。今こんな問題にぶつつかつてゐます。どうか先生この問題に對する御意見を承りたうございます勿論紙上で充分結構です。子供を可及的により偉大にするのが結婚の目的理想である。これは眞理でなければなりません。しかしてそこに起る第一の問題はこうだと私は思ひます。

第一、不幸結婚後一方或は双方（稀でせうが双方といふのは）が、性的缺陷があるといふことを知つた場合其の結果子供を舉げることが出來ないならば離婚してもよいか否かといふことです。

第二の問題はこの人間の高尙な理想を遂げることが出來ない場合あの人間らしい勇しい理想に代るべきものは何でせう、少くとも近いものは何でせう、自己以外の人の子を貰つてやつたらどうでせう（滿足なものではないでせうが）或は他の社會的奉仕に余人生をさゝげて滿足すべき

でせうか、社會的奉仕は子供を偉大にするといふ時にも同時に人間としてなさなければならないことだと思ひますが、先生どうかこの以上述べた二問題に對し御意見を承りたいものですこの二問題は餘りに欲の深い欲求かも知れませんが家庭の中心を子供と見る人々には性的缺陷があるといふことを知つた場合これは隨分大きい悲劇じやないでせうか。(こうなつた場合私は(性的缺陷があることを知つた場合)以上の二問題をうまく解決する方法がないなら其の理想の犧牲に當然ならればならぬとは思つてゐますが出來るなら其の不幸な人々の爲最良の方法を示してやつて戴きたいと思ひます、どうか先生御忙しい寸暇を御割き下さいましてこの二問題にぶつつかつた私を救ふのだと思召して紙上の一行でもかまひませんから御意見を承りたうございます。どうか伏して御願ひ致します。こゝに婦人と新社會の御發展を祝し、併せて將來の大なる使命の上に幸あらんことを祈ります。亂筆御免下さい、さようなら。　六月七日

第一の御質問にお答へします。離婚の理由は愛の消滅した場合に限るものだと思ひます。子供が生めなければ別れてもよいと云ふ舊い考へは餘まりに人間性を無視したものだと思ひます。唯、精神的の愛計りでさへも可なり人の心をうるほし得る事實も私共は承知してゐたいと思ひます。たとへ、子供は生めなくてもお互ひの生活を豐富にすることが出來るならば、それだけでも結婚の一ッの目的は達せられてゐます。そしてこれは『子供を可及的により偉大にするのが結婚の目的、理想』とする大原則に矛盾して居りません。なぜなら、生理的の親となり得なくとも精神的の親になり得ますから。

其處で、第二の御質問に對するお答へは出て來ます。子供を生むと云ふ第一義的の仕事に無能である場合には第二義的の仕事があります。戰爭に第一戰線、第二戰線があるやうに。そして、其の仕事は子供を生むのと殆んど同じやうに重用であります。殊に不用意に無自覺のうちに親になる人間が多い間は猶更この第二義的の仕事が重用であります。あなたの仰有る社會的奉仕は此の意味ではないでせうか。そして、今日の場合この第二義的の仕事の方が却つて必要であらうと私は信じます。けれども、子供が無いと云ふことは例外だ

と云ふことも忘れてはなりません。

■角川雲南樣より。山田先生!! 私は先生の主筆たる「婦人と新社會」の五月號の「編輯を終りて」を讀んで亡くなられた先生の御友達の御身の上が餘りに悼ましいのと先生の友情の厚いのとに感じて泣きました。實は私もそんな境遇に遭つたことがあるので誠に御同情に堪えぬのであります、私は北海道産ですが職業の關係で一昨年の今月ちようど上野の櫻花が散りかけた四月中旬同じ日本ですか北端の北海道より南端の鹿兒島に轉任しました。その年の七月公用を帶びて上京したのでありますがその留守の間に妻女は流行感冒にかかり急性肺炎を起して容體が危險だと云ふ報に接し嘘か眞かを疑ひつゝ急遽歸鹿したのでありました、それから何日を經てさう／＼看護の甲斐もなく天國の人になつたのです、そのとき私は二十九歳で三人の子供があつたのです。一時は始末に困り二人の女中と力を合せて養育中最も力とし賴みとせる長男が急性腸炎を病んで妻が逝いて九十日目に是れも鹿兒島病院の一隅に露と消えたのであります。其の間病床にあること僅に四日四晩に過ぎませんでした。轉任後僅々數ヶ月の中にこんな慘事に重れて會つた私は名利榮辱を顧るの遑もなく殆んど病院の前を通るのすら、いやになつてとうとう其の年の十一月下旬家財を疊み若き妻と四歳の長男の遺骨とを携へ殘された二人の幼兒を引き連れて親の元北海道に歸ることになりました。此の時の私の心理狀態と先生の御友達の橫濱御者の心理とは略同一狀態にあつたことと思はれます。

私が鹿兒島を出發するとき最も恩人なる某勅任官の奧樣が停車場迄御見送り下されていとも懇ろなる御言葉を以て心そこから私を慰めて下さつたのでした。爾來二回の新年を雪の國で迎へました。然るに此の奧樣は平素御達者であられたのに本年のお正月早々フトシタ事より流感となり急性肺炎を併發してとう／＼一月八日になくなられました。斯樣なのが人生であるのかと又しても私は泣かずには居られませんでした。

而して殘つた二人の子供は一人を親の處へ一人を弟の處へ預け或る目的のために東京で勉強してゐます。

先生!! 山田先生! どうぞ可憐なものとして此の後紙上に於て何彼と御指導を賜はらんことをお願ひしま

す。(五月二十九日)

御指導者などとは思ひもよらぬことで御座います。私はそんな大きな力を持つてゐるものでは御座いません。けれど、人生の苦痛を嘗めつくし、血の涙で虚僞や虚飾を洗ひ落されたもの同志には其處に又相通ずる何物かゞあることを私は信じます。其の相通ずるものを持つて交際するのが人間の本當の交際だと思ひますそして、其處に幾分かの慰安がありはしないかと考へます。苦痛の多い人生に於て僅に私共の慰安となるものは、燒けつくやうな暑中の旅の途中で、一寸腰を下して濫茶でかはいた喉をうるほす位のものではないでせうか。そして、それは相知るものを持つと云ふ位のものではないでせうか。おいとしいお子様達のため、二ッにはあなたと同じやうに涙の多い日を送つてゐる多くの悲しい人々のため御自愛の程をかげながら祈つて居ります。

■齋藤枯様より。拜啓。小生は一面識もなき靑年です。六月號雄辯に先生の「新婦人の要求する新男子」を拜讀致し厚顏の至りながら感遂に筆に至り小さき靑年の胸中を告白仕るものに御座ります、御多忙の先生に拙き愚説に御暇を御かけ申す事を豫め御詫び致します。

小生の書を寄するに至つたのも一つは全く「男なるぞ」の氣分の存在の爲めかも知れません全くそうなのです。然し乍ら一方には先生の御説に何分かは知りませんが反應する考を以て居る者なりと信ずる者に御座ります。

然し乍ら當今の日本否小生の郷里(栃木縣)の方に於てかは知られど夫婦なるものが餘りに年齢を異にし又學歴を異にするの習あるかのよう見うけられ、然も年齢に於ては女子に於て幼なく學歴に於ても劣なる樣見うけられます、女子は男子より理性に於て三四年早き發達をなすかの樣には聞かされ居りますが、併し、當時の結婚に於ては年齢に於て十歳より少なくも六歳位女子の方の少なきを通例なりと認められ居る樣に見受けられます、又學歴に於て女子は高等女學校を以て最高學府の樣自己も任じ復た世間も此れを認むる樣であります然して專門の學校出にも高女卒、中學卒にも高女卒、或は中學出には高等小學校位或は實科高女卒、そして、凡てが此れにならつて行く樣ですが、なんにせよ要するに女子はその嫁ぐ夫よりも學力に於ても劣

る樣に考へられます、で年齡に於て十歲も乃至六歲も違ひ居りますれば例へ女子は理性が早熟するとは云へ確かに夫のそれよりは劣るとも優る事はあるまひと存じます、かかる間に成立された新家庭です。小生は同權を愛します、即ち權利上より男子の屋外の働きと女子の家內の働きは相等しく一家保存の二分一づゝを分擔して行かねばならぬと存じます、然るに理性に於て學力否智力に於て富んだ男子は已れより劣つた女子(妻)の家內に於ける働きに滿足が出來るでせうか。恐らくは到底滿足を與へられぬ事と信じます。そして愛のもつれで遂に離緣とか怒りとが云ふ感は生ぜぬでせうか。而し必ず蹶起して敎師否それまでに行かずとも兄の如き狀況となつて內事について指導の任にあたる事必然なりと存じます。而して劣りし女子は自然と男子(夫)を尊敬、それまでにならずとも何物か此れによる感の起る事と信じられます。かくして同一權利を持つて初めには立つた新家庭にもせよ遂に舊家庭に移り行くなきにしもあらずと考へられます。

先生よ靑年は望みます「新しき婦人の新男子を要求する」前に先づ「時代の要求する婦人」について大いに論說して下さい。結婚年齡の差は多くて四五歲と存じます、學歷は略々同樣の順序を有するもの。かゝる事を兩者の間に自覺せしめて戴きたいのです。靑年は切に考へます。言熱して御無禮の段々平に御容謝下さい。

小生は一靑年前後の途も辨きまへる力さへなきものに御座ります。終りながら、一重に力ある御指導を垂れ輝く前途を御示し下さる樣願ひ上げます。文亂れて時をより以上御過し申されし事を謝します、乍末先生の御壯健を祈り上げます。早々。(六月三日)

私の書きましたものを御讀み下さいまして御感想迄る御よせ下さいました御熱心を厚く〳〵御禮申上げます。御說御尤もに存じます。御心持ちはよく了解出來ました。智力に於て年齡に於て差があればどうしても同じやうにはなれません。今日の我が國の狀態に於てデモクラシーの實現の難しいことを私が主張致しますのも婦人參政權の尙早を稱へますのも矢張りあなたと同じ觀察をしてゐるからで御座います。けれども、普通の男子以上の智力を持つた婦人も、又、相當に人生に經驗を積んでゐる婦人でも女性なるが故にひッこまされる場合があることを御承認下さらないでせうか?

又、同じ腹から生れた子供でも女性なるが故に男の子に劃りをとられると云ふ事實を觀察して頂きたいと思ひます。親は『お前は男だから、』或ひは、『女だから、』と云つて區別を致しますし、男の子も得意になつて『俺は男だぞ』と云ふ態度をいつも持つてゐることを。

一般の女性の智力を高め、女性の能力を增進することが急務であるに相違ないのですが、親や兄弟始め一般男子が別な目で女性を眺めてゐる間は女性の能力は伸び得るものも、勿論例外はありますが、萎縮してしまうことを私は恐れます。ですから、女性の能力を伸長し、より健全な、より幸福な兩性共同生活を營み得るやうになるために先づ、男子が一歩讓らなければならない、云ひかへれば指導者にならなければならないと思ひます。まだ申上げたいこともありますがいづれ又。未來多き若き方達の御健勝を祈ります。

■草間判二樣より。六月號一日（田植の前夜）寸暇を得て讀みました卷頭の文には私希望を同ふするものです。しかして最高の努力を一日に費し愉快に床に就く日を重ね重ねる時死の瞬間にも微笑を以つて臨む事が出來るであらうと思ひました。

實際親は自分より子供を賢こく偉い人にしようと努力しつゝあると云はれてありますが、子供も又凡てに於て親に優らん事を苦心してゐるものです。父は新聞も書籍も讀まず働いたのに現に働きつゝあるのに、自分は共等に少なからぬ時間と精力を費してゐるのに、若しや生產能率に於て自分が父に劣りはせずやを常に憂へてゐます。內外時評のなかつたのは遺憾でした。

御答は再三再四讀んで御厚志を謝しました。之も田植の朝家人に叱られて書いたんです。賑かに田植の人の歸る時月は山谿の松に上れり。五月卅一日

人間生活の基礎である農業にたづさはりながら、しかも、絕へず言論界にお心をよせて居られる御生活をどんなに私はうらやましく思ふ事でせう。ホマソンの云ふ"Plain living and high thinking"をあなたは實行して居られます。本當に理想的御生活です。月が出る迄田の中で働いて御ゐでになる勤勉な皆樣を祝福せずには居られません。皆樣の御健康を祈ります。

[illegible]池邊まさ代樣より。突然にも不躾な書狀差上ぐることをゆるして下さい。私は貴女樣の御主筆になれる『婦

人と新社會』を創刊號より拜見さして頂いて居る田舍者の一少女です。

一面識もないとは言へ、貴女樣の私達同性を、否々人類の幸福を齎ふての本誌！そのなかには、貴女樣の燃えるような血潮と、沸る程な涙との全部がそゝがれてゐることを知りました。そして、その血と涙との裡に育つ、私の魂！そこには肉體より以上の幽玄な關係がありやしないでせうか？想ふに、今迄の婦人問題を論ずる者の大方は、婦人の天職（婦人にのみ與へられたる責任、權威、幸福）を無視せる、または輕視せる非化學的なものではなかつたでせうか？然し、宇宙の眞は、どうすることも出來ません。かの無根據な空論「投入れの花」のやうなのに引き替へ、縱令それが、ほんの芽生であらうとも深い眞理の地面に根ざした双葉は、永久に伸び繁る可能性をもつてゐるのですもの。そして、その貴重なる梅檀の芽は、貴女樣方によつて益々完全な發育を遂げ得ることゝ存じます。こうした意味に於ても偏へに、貴女樣の御健在と、御奮闘とを祈つて止みません。終に私如き不束者乍ら御見すてなく御指導下さいますよう願ひ上ます。

御奮闘、御同情のお言葉の數々を有りがう御座いました。けれど、角川樣にも申上げました通り、私は人樣を御指導すると云ふやうな大きな力を持つて居るものでは御座いません。世界を通じて今日迄婦人は智力の芽を或ひは能力の芽を押しつぶされて居りました。中にも我が國の婦人は歐米の婦人に比較して猶一層烈しく押しつぶされて居りました。其の日本の婦人のうちでも一寒村の一農家に生れて學校の門もくゞらせられず、世間の識者に接近する機會も持たなかつた私はまだ〳〵無智無學であります。それで、小さくともこうした雜誌を持ち得たのを幸ひに、これを通じて皆樣から御教へを仰ぐことを私は期待して居ります。唯、私は、世の荒浪にもまれ〳〵してゐた結果、人間生活の基調となるものを掴んだやうな氣が致します。そして、其れは愛であることを信じます。そして、其の愛は智力や財力をしりぞけて燦然として光つてゐると思ひます。それで、これを基點として皆樣と手をひき合つて徐々と向上の途に登つて行きたいと思ひます。今後とも御助力の程願ひ上げます。

[illegible]荒操天樣より。謹啓、未だ拜眉の榮を得ず而かもこ

んな體裁で藪から棒的にこんなことを御願するのは讀德も至れりと心苦しい私の立場ですが、庶幾くば私の切且つ眞なる衷心よりの叫を御汲みとり下され一言御染筆御返事下されん事を。

　私は福島縣相馬中村在なる一貧寺の徒弟縣立相馬中學卒業後去んぬる大正五年四月井蛙の私初めて上京目下未だに學籍を巣鴨なる宗教大學（淨土宗）に置き表記の寺に隨身寺務手傳旁々通學せる苦學生の一人、當歳廿五、私は現代學制々度に云ひしれぬ輕蔑と呪詛と憤懣とにやる瀬なきを、わづかにこれが改制實施を近き將來に翹望し一切を放擲して、ひとり、その精力と時間と努力とを、英語勉強、先生御主筆の婦人と新社會並にあまたなる玉著拜讀に割愛し、而して見ざる畏と敬と親と信との全幅を捧げつゝあります。

　こゝに至れる私の動機理由たるや一にして足らざるも總じて云へば私はあまりに feminine な宗教的な感受性に富めることとこれにてまゝ極端な過激的な常軌を逸した感傷生活の俗評の的となつたことと枚擧に遑あらず、だが私は該生活によりてその程度いかに Refine され Purify されたかに想到する時、私にその行跡に對し隱德的快心を感得せざるを得ませんでした、別して云へば私の婦人問題に指を染めたるや佛教的社會觀に立脚し婦人への理解同情の衷心發露たる信念の然らしむる處、これを職業化せる一派の徒と私は先生の難問題解決の鍵としての所謂犧牲（肉と心との）該問題の研究及事業の全生命に遺漏なく傾注すべく腑を固めました。そして既に計畫の時期より實踐のそれへと歩を進めて居ります。だがその研究方法實行手段たるや極めて混沌、未だ統一の境外に逡巡漂泊の體です、域内にまで御導き下されなくとも、その方向だに御指示下さるゝは、釋尊說教の中心生命たる離邊處中、そのまゝの先生の絕說、御主義御生活の偉大を通して、（私よりは僣越の嫌はあるが）私の管見した中先生以外に求むべき仁なきを知りました。

　何日何時玉門を叩くも支障なきや、御食事御休みの幾分を特にこの微劣な憫れな研究者のため御割愛下され諾否の一言御返事の勞を煩はしたう存じ奉ります。

　失禮を省みず拙なる文と劣なる字とを羅列して鶴首すること一瞬千秋の思で歎願御許容の程待ち申します。右御願ひ迄。六月八日。

一日暇をつくつて御同情下さいます皆樣とゆつくり御話したいと思ひます。談話會と云つたやうなかたちで。そして、私の先生にも一所になつて頂いて。私の先生と云ふのは今日迄智的に私を育てゝ來た私の夫で御座います。けれども、八月の始めに關西へ行つて來なければなりませんので其の準備もありますし、勿論其の外の仕事もありますから其の後でなければ暇が出來まいと思ひます。

私は毎月々々隨分書きますが、併し、手習ひと云ふことをしたことのない私の字の貧弱でキタナイことゝ、本當に始めての方にお手紙を上げる時にはいつでも書き始める前にキツト顔が赫くなるのです。それと同じやうに、まつくろな大きな百姓女を御目にかけるのが何だかきまりが惡いやうな氣がします。

[illegible]島田淸作樣。御承知の通りの小さな雜誌でいつも紙面が足りませんので皆樣の御稿を頂くことが出來ないのを殘念に思ひます。雜誌が大きくなりました時に改めて御願ひしたいと思ひますが、それ迄は御端書でなりと又は普通の手紙位の長さで頂けますなら好都合で御座います。

◎寄贈雜誌六月號

婦人畫報
雄辯
解放
啓明
眞生活
法廷より社會へ
婦人界
著作評論
面白倶樂部
社會主義研究
新社會評論
婦女新聞
女學生
關西婦人新聞
精神運動

◎寄贈新刊

社會主義社會學　高畠素之　三田書房
マルクス資本論解說　高畠素之　賣文社
マルクス學研究　高畠素之　公文書院
婦人勞働問題　社會政策學會編纂　同文館

お客

アレキセイ　レミゾフ

大金持ちがありました。どれだけお金を持つてゐるものか相像することも出來ない程でありました彼の食事は大したことで彼がお膳に向つたら容易に其處を離れることは出來ません。それは／＼大變な御馳走なのですから。

彼は家族と理想通りに幸福に暮してゐたのです。彼は妻を寶石のやうに大事にしてゐした。子供達は皆賢いので、娘や子息は彼を喜ばせる計りでした。

處が、彼は貧乏人には全く無関心でありました。一人の貧乏な弟があつたのですけれど彼はふりむきもしませんでした。けれども、彼は一人の伯母を養つてゐました。其の伯母はもう年よりでありましたし、其の上に貧乏ではありましたが、彼女は絶へず彼のたましいの安全を神樣に祈つて呉れたからです。不自由と云ふことを知らない彼も自分のたましいに關しては常に不安を感じてゐたのです。

幸福が滿ち／＼てあふれこぼれるやうな家庭を持ち、たましいの安全を祈つて呉れるものはあるし彼はもう充分である筈です。其の上要求するものは何にもない筈です。

處が或る日フト彼は神樣がお客樣として彼の家を訪問して呉れたらどんなにいゝだろうと思ひまし

た。彼は神樣にそれを頼みに教會へ行きました。
それから彼は自分の家の入口から教會の入口迄すつかり絨毯を敷きつめました。そして、お祈りをして窓の傍に立つて神樣の來るのを待ちました。夕方迄彼は立ちつくして待つてゐました。けれども神樣がおゐでになる樣子はありません。誰でもいゝから見へればいゝと思つても其れさへも見へませんでした　處が、其の晩、病氣であつた年よりの伯母さんが死ました、で、彼は神心深い伯母さんの心に叶ふやうに充分にお祈りをして、そして、正式におとむらいを濟ませました。
そのおとむらいのあつた日の夕方小造りな年老いた乞食が彼の家の戸口へ來て、そして、一夜の宿を乞ひました。最初彼は苦い顏をしてゐましたが、又、思ひ直して其の乞食を家の中へ入れました。するど乞食は一杯の水といくらかの食物をねだりました。
『基督のために』
と云つて彼は殘りものゝ肉の骨を其の乞食に與へて、そして、伯母さんの死んだ小さい部屋へ連れて行つて其の晩は宿めてやりました。
翌くる朝乞食は主人に禮を云つて歸つて行きました。
彼は神樣が來て吳れないので大變不滿でありました。彼は始終窓の傍に立つてゐました。そして、自分のうちから教會の入口迄敷いた絨絨の上を眺めてゐました。神樣を待つてゐるのでした神樣をお客として迎へたくて仕方がないのです。

處が、誰も見へません。誰でもいゝから見へればいゝと思ふのですが、あいにく誰も見へません。

とう／＼疲れて彼は寢てしまいました。

たちまち、死んだ伯母さんが彼の枕もとに現れて來て、ひどく小言を云ひました。

「お前が乞食だと思つたあの方が神樣だつたのだよ。だのに、あんな取りちらしてある小さい部屋へお入れするとは何事だ。お前は大變不親切な人だ。お前は教會へ行つて神樣にお頼みして、神樣に來て頂くやうに紙錢追歎いたではないか。どうしてお前はあの老人をあんな風に取り扱つたのだ。犬かなんぞのやうに骨などしやぶらせて。神樣がお前のうちへお客になつて來たのに。お前は何と云ふ惡い人だ！」

驚いて目を覺まして彼は泣き出してしまいました。彼はもうどうすることも出來ないからです。けれども、彼はどうしても自分のあやまりを正さなければならないと思ひました。彼はどうしても、もう、一度、そのお客を探し出さなければならないと思ひました。彼は自分の家を後に出て行きましたそして、逢ふ人毎に彼は其のお客の人相を云つて尋ねました。「そう云ふ人には逢はなかつた。」と皆が答へました。

けれども、彼はそれであきらめて歸へることは出來ません。だん／＼／＼先きへ／＼と行きました其のお客を尋ねて。彼の富、彼の家、彼の家族は永久に彼の姿を見ることが出來ませんでした。

私生兒に關する統計的研究

出產率

合衆王國に於て每年生れる私生兒は五萬人あります。この割りで行くと二十年間には百萬人の私生兒が出來るわけです。そして、これは、皆、正當な結婚をしない結果であります。過ぐる一九一三年から一九一八年迄の英國とウエールスの產兒の統計をとつて見ますと次のやうになります。

年	出產數	普通兒	私生兒
一九一三	八八一、八九〇	八四三、九八一	三七、九〇九
一九一四	八七九、〇九六	八四一、七六七	三七、三二九
一九一五	八一四、六一四	七七八、三六九	三六、二四五
一九一六	七八五、五二〇	七四　、八三一	三七、〇一〇
一九一七	六六八、三四六	六三一、三三六	三七、〇一〇
一九一八	三三二、五四七	三一二、五八七	一九、九六〇

英國では死んで生れた子は書き上げないことになつてゐますが、もし、それが一々書き上げられたら大變な數になるであらうと云はれてゐます。死んで生れても書き上げることになつてゐる國の統計に私生兒の死產が非常に多く、時とすると正當な結婚の保護を受けてゐる死產の二倍あります。(一九一八は前半期)

死亡率

何處の國でも私生兒の嬰兒死亡率が非常に高いと云ふことが發見されました。私生兒は普通兒の二倍死んでゐます。充分な保護を受けてゐる兒が一人死ぬ間に其れ等の保護の手を缺いてゐる兒は二人づゝ死んでゐますそして、其の死亡率をとつて見ますと次のやうになります。

年	普通兒	私生兒
一九一二	九一	二一
一九一三	一〇四	二一三
一九一四	一〇〇	二〇七
一九一五	一〇五	二〇三
一九一六	八七	一八三

そして、正當に結婚をしてゐない母の死亡率も正當な結婚をして相當な保護を受けてゐる母よりも非常に多く、そして、增加しつゝあります。產をしてから一週間內に死んだ母は一九〇七年には一七十パセントであつたのが、一九十六年には二百〇一パセントでありましたので、英國に於ては、この恐しい事實に對し子供の幸福な保護する協會がそれ等の私生兒に殊に嬰兒に特別な注意を拂はねばならぬと云はれてゐます。

血色の文字

The Scarlet Letter

ホーソン作

邂逅

見物人の假借なき目の的に自分がなつてゐると云ふことを血色の文字を胸につけた女は遂ひに再び忘れた。と云ふのは多くの群集の端の方に彼女は不圖或る人の姿を見つけたのである。一人の亞米利加土人が土人の服裝のまゝで其處に立つてゐたが、併し、亞米利加土人が英國人の植民地へ出入りすると云ふことは珍らしくはないから、其の土人の姿がこう云ふ場合のヘスターの心を惹くわけもなし、まして、其の土人が彼女の目と心からあらゆる外のものを取り除くわけもないのである。が、其の土人の傍に一人の白人が一部分は野蠻人、一部分は文明人と云ふとゝのはない服裝をして立つてゐたのである。そして、其の白人は確に其の土人の連れらしく見へたのである。

其の白人の丈は低くかつた。顏は、まだ老境に入つたと云ふわけではないが、併し、深い皺がたゝまれてあつた。そして、其の容貌のうちには智力の光りが輝いてゐた。精神的の錬磨が生理的の

かたちをも變へ、そして、著しいしるしを顏に現してゐる人のやうに。異樣な外見だけ無頓着な服裝をして其の人は自分の或る特種な點を隱さうとし、或ひは少なくとも目立たないやうにして居るのであるけれども、併し、ヘスターの目には其の人の片方の肩が他の片方の肩よりも高いことが明らかに分つた。其の瘦せた顏と、そして、少し不具になつた其の姿とを見付けた瞬間に彼女は再び痙攣的に強く赤子を胸に抱きしめた。赤子は苦しさに、又、泣き聲を擧げた。けれども、此の母親には其の泣き聲が聞へないやうであつた。

　彼女が其の男の姿を見つける少し前に彼は此の廣場へ致着して、そして、すぐに臺の上の女に目を向けたのであつたが、內觀的な、そして、自分の內部生活に直接關係がないものはどんなものでも要用でもなければ價値もないやうに思ふのが習慣である人のやうに、始めは全く、無關心に彼女の顏を見たのである。けれども、次の瞬間には彼の目は異樣に輝いて來て、彼の樣子は恐しい程鋭くなつて來た。同時に驚愕と苦惱が彼の顏を歪めてしまつた。恰も蛇がスッと彼の顏に這ひ上がつてトグロを卷いて一寸とゝまつたやうに。烈しい感情のために彼の顏は暗くなつてしまつた。けれども、彼は意志の力で直ち其の感情を押へ付けてしまつた。其のために一分間の後には彼の表情は却つて平靜なものであるやうに見へた。彼の心の激動は殆んど少しも彼の顏には見へないやうになつた。彼は心の奧の深い處にそれを押し沈めてしまつたのである。そして、ヘスターが彼を認めた

こと、彼女の目が彼の目とピッタリ出逢つたことを認めた時に彼は靜に彼自身の指を擧げて、そして、其の指を自分の唇にあてゝ見せた。

それから、彼は彼の傍に立つてゐた此の町の人の肩に靜に手を觸れて、そして、丁寧な言葉で禮義正しく話しかけた。

『一寸御伺ひ致しますが、あれは何と云ふ女でありますか？　そして、どうして、あんな目に合はされて居るので御座いますか？』

『そんなことをお聞きになるあなたは此の地方の方ではありませんね。』

と云ひながら、話しかけられた人は不思議そうに、質問した男と、そして、彼の連れである野蠻人を眺めてゐた。そして、

『さもなければ、あのヘスター・プリン夫人と、それから、あの夫人の犯した過失に付いてお聞きにならないと云ふ筈はないのですから。あの女はデイメスデール師の教會でとんでもない惡いことをしでかしたのですよ』と云つた。

『仰有る通り、私は旅人です。私は心ならずも今迄流浪してゐたもので御座います。私は海の上でも陸に上がつてからも非常な災難に逢ひまして　そして、異教徒に捕へられまして、南方の方に囚はれてゐたので御座います。そして、今度ば其の處から贖ひ出されるためにあの上人に連れられ

て來たので御座います。ですから、どうぞ、ヘスター、プリンに付いて、あの女の名はさう云ふので御座いましたね、おきかせ下さいませんでせうか？　どんな罪を犯したのか、そして、どうしてあの絞首臺に立たされてゐるのでありますかを。』

『本當に、あなたは嬉しいでせうね。さん／＼困難をなさつて、曠野などに滯在させられた後に不正は探し出され、役人や公衆の前で惡は罰せられる此の神聖なニューイングランドへ出て御ゐでになつたことが。向ふに立たされてゐるあの女は或る學者の妻であつたのです。其の學者は英國生れでありますが、アムステルダムに永く住んでゐて、そして、そこから、それはもう餘程前のことですが、このマサチユセッツへ來て、そして私共と運命を共にしようとしたのです。けれども、或る必要な用事のために自分は暫く後に殘つて、そして、妻だけ先きに此處へ送つたのです。其の若い奥さんがこのボストンへ來てから二年足らずにもなるのに其の間に其の學者で紳士であるプリンス氏からは一度も便りがないのです。で、まア、御らんなさい、其の間に其の若い奥さんが迷ひの道に這入つてしまつたのです。』

『ああ、ああ、分りました。』と旅人は苦笑した。『其の學者はかう云ふことがあることをも本の中から學んで置くべきでしたね。そして、あの女が抱いてゐるあの赤子の父は誰れですか？　見た處生れてまだ三四ヶ月位のやうに見へますが。』

「まア、それが謎のやうなんです。この問題を解決するためにはダニエルのやうな名判事が必要ですね。ヘスター夫人は絶對に隱してゐます。役人達は其のために度々額をあつめて相談するのですがそれが何にもなりません。ことによると其の罪人はそこらに此の悲しい光景を眺めてゐるかも知れません。人が知らないのを幸ひに、そして、神樣が見てゐると云ふことは忘れて。」

と、町の人が云ふのに答へて旅人は

「其の學者とか云ふあの女の夫が此處へ來て、そして、其の秘密を調べたらいゝでせうにね。」と云つた。

「そうですよ。もし、其の人が生きてゐるなら、そうするのが其の人の義務ですよ。このマサチユセツの役人達は、あの婦人が若くて、そして、美しいから誘惑も定めし强かつたらうと云ふことを考へてゐますよ。それ計りでなく、あの婦人の夫と云ふ人は恐らく海の藻屑となつてしまつてゐるかも知れないと云ふことも考へてゐますので、あの婦人の罪に對しては嚴しい法律を餘程手加減してゐるのですよ。一體、あの女の罪は死刑なのですが、役人達が温い心を持つてゐるものですから、あの女を不憫に思つて、唯、三時間あの臺の上に立つた後に恥のしるしの文字を一生涯胸につけて置けと云ふのが宣告なんです。」

「それは適當な宣告です。」と旅人は重々しく頭を下げながら云つた。そして、「それで、あの女は

罪を成しめる生きた説教となります。あの女の墓石にあの恥の文字が刻みつけられる迄。けれども其の不義の相手があの女と一所にあの臺の上に立たないと云ふことはもどかしい極みです。けれども、其の男は今に知れませう。今に知れませう。今に知れませう。』

かう云つて其の旅人は快く話して與れた其の町の人に丁寧に頭を下げて、そして、連れの土人に二言三言何にかさゝやいて、それから、群集の中へ這入つて行つた。

一方では、ヘスター、プリンが臺の上から其の旅人を見つめてゐた。彼女の心は全部其の方に惹かれて行つてあらゆる此の世の目に見ゆるものが彼女の目から消へてしまつた程、彼女は熱心に見つめてゐた。そして、其處に殘つてゐるものは自分自身と其の男とたつた二人になつてしまつたけれども、彼女は其の男とたつた二人の處で逢ふよりも、こうして、白晝に、燒けるやうな日光の下に、恥のしるしと恥から生れた子供と共に其の恥を輝らされながら、おまつりのやうに集つた人々に顔を見られながら、其の男と出逢つた方が遙に恐しさが少なかつた。一體、今、大勢の人が眺めてゐる彼女の顔はいろりの靜かな火の傍で、或ひは平和な温い家庭のうちで、或ひは又教會に於て主婦らしく顔を覆ふたベールの下に見るべき筈の顔であつた。であるから、彼女は其處に立つのが恐しいことであつたに相違ない。けれども、この無數の見物人が却つて彼女に保護を與へてゐることを彼女は感じた。其の男とたつた二人で顔と顔とを合はすよりも、彼と彼女との間に其の無數

の群集を隔てゝ彼に逢つたことを彼女は喜んだ。こうして、晒しものになることのうちに彼女は彼からの逃場を見出したやうに思つた。であるから、此の保護が取り去られて、其の男と直接に相對さなければならぬ瞬間が來ることを彼女は恐れた。そう云ふことに思ひ耽つてゐたので、彼女は彼女の後から彼女の名が呼ばれてゐることに氣が付かなかつた。彼女が其れに氣が付かないので其の聲はだん／＼大きくなつて、遂ひには群集の全部に聞へるやうになつた。其の聲は嚴格な調子で『聞けよ、ヘスター、プリン』と云つてゐた。

ヘスター、プリンが立つてゐる臺のすぐ後に禮拜堂の張出し椽があることは既に云つて置いた。その當時に於ては役人達が其の張出し椽に集まつて、こう云ふ場合に相當な儀式の下に公衆の前で宣告をするのが習慣であつた。知事のベリングハムは戟を持つた四人の警官に守られて此の場合を見張るために坐つてゐた。彼の帽子には黒い羽毛がついてゐて、上衣の縁には刺繍がしてあつた。そして、下衣は黒の天鵞絨であつた。彼は苦い經驗を顔の皺にたゝんでゐる可なりな老人であつた。其の起源と進歩と、そして、今日の發達の狀態を青年の衝動にではなく、併し、嚴格な鍛へられた一人前の人の精力と、そして、落付いたその時代の聰明さに歸因して非常な仕事なして來た社會――何となれば空想もいだかず不可能な希望も持たなかつた故に――そう云ふ社會の頭となり、代表者となるには彼は適當な人物であつた。

編輯を終りて

落穗集に侵略されて此の號も又内外時評が押しつぶされてしまつたことを殘念に思ひます。多くの方が有意義な御手紙を下さつたものですから。梅雨期に入つて愚痴な女がメソ〳〵してゐるやうにさつぱりしない氣候が又續きます。皆樣の御健康を氣遣います。育ち切つた青桐の葉の間から、うす暗い落付きのない空を眺めてゐますと朝刊新聞にあつた尼港に於ける過激派の暴虐、門司に於ける虎疫猖獗が不快さ憎惡の念と共に頭に浮んで來ました。重い空氣とそれ等の新聞の記事が私の頭を壓してしまいそうになりました。この時窓の下でお隣りの奥さんの大きい、けれども優しい子供の名を呼ぶ聲が聞へました。それに連れて『母チャンなアに』と云ふまだ呂律の確かでない子供の聲が致しました。私は机を離れて窓の傍によつて行きました。向ふの横町から小さい子がヨチ〳〵と一生懸命かけて來ました。そして母親の手につかまつて『母チャンなアに』ともう一度聞きました。『何でもないんだけれども、坊やがおうちの前にゐないもんだから母チャンは泣いてゐたんだよ坊やは母チャンが泣くのになぜそんな遠い處へ行つてしまうの？』奥さんは優しい〳〵口調で子供を責めました。子供は目を圓くして母親の顔を見つめてゐましたが、やがて『母チャン、もう坊やはおつちへ行かないよ』と云ひました。空の色がどんなに險惡でも世界にどんな暴虐慘虐が行はれても此處には調和した感情小さい天國がありました。

▼編輯用は東京四谷南伊賀町四ノ一山田わかへ▲

本誌定價表

一冊	前金	金二十五錢	送料五厘
六冊	前金	金壹圓四十錢	送料不要
十二冊	前金	金貳圓七十錢	送料不要

○誌代及郵税は前金の事御送金の際は振替貯金東京四一〇七七番に御拂込みのこと（郵券代用は五厘切手にて一割増）
○廣告は御照會次第御相談いたします

大正九年六月二十日印刷
大正九年七月一日發行

編輯兼發行人 東京本郷湯島四ノ三 阿部仙太郎

印刷人 東京神田仲猿樂町十七 大杉直次郎

發行所 東京本郷區湯島四ノ三 東洋出版社
振替東京四一〇七七番

((思想ノ向上ト。生活ノ基礎))

裁縫生募集

[illegible]職業婦人トシテ獨立的希望ヲ有スル女子ノ爲ニ裁縫ノ奥秘ヲ開放教授ス

一 速成科 六ヶ月卒業
一 本科 二ヶ年卒業
一 寄宿生 一ヶ年卒業

卒業セシ者ニハ免狀ヲ與ヘ希望者ハニ本塾ト同一ノ名義ヲ附シ統一的教授ヲ計リ獨立獨歩ニ至ルマデノ保護ヲナスベシ

(規則書郵券貳錢要ス)

東京市神田區末廣町十三番地

合名會社 **正則裁縫技塾**

塾長 鈴木理典